

熊本 発祥

日本初のスクランブル交差点  
熊本市中央区・子飼交差点



スクランブル交差点、と聞くとどこを思い浮かべるだろうか。ほとんどの人は渋谷駅前を思い浮かべるだろう。多くの人が駅へセンター街へと行き交う様子が連日報道されている。

日本第1号のスクランブル交差点が熊本にある事をご存知だろうか？ 水前寺方面から子飼橋通りを北上し旧57号線に突き当たったところにその交差点はある。子飼商店街の入り口にも面しており、付近には熊本大学キャンパスもある交通の要所だ。

旧57号線を熊大方面に向かってみると、片道車線に面した通りに弁当屋やラーメン店、居酒屋が多く軒を並べている。ラーメン店ではコロナ禍にも関わらず多くの学生と思しき利用客で賑わっていた。個人経営と思われる自転車店もあり、この帯に住む学生の重要な足を支えているのだろうか。

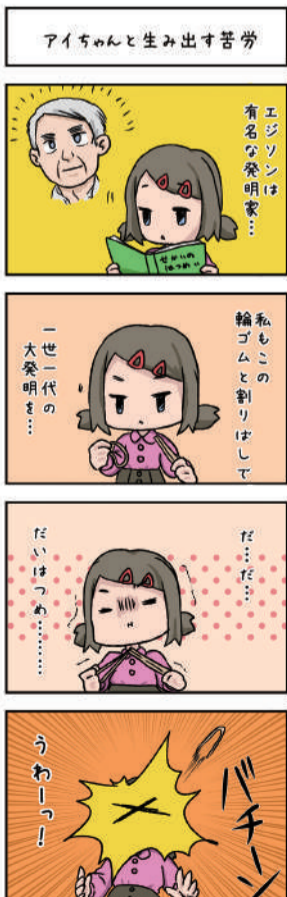
次に子飼商店街方面に足を向けてみる。昼過ぎの人の出の多くない時間帯にも関わらず交差点には数人の歩行者が信号が変わるのを待っていた。朝や夕方になるともっと多くの歩行者がいるのだろうか。商店街では中休みで暖簾をさげている飲食店も多い中、八百屋

や花屋は店を開け威勢のいい声をあげている。他にも肉屋や米屋や漬物屋などいくつも昭和ながらの商店が商いを営んでいる。

熊本県警察史によると日本で初めて子飼にスクランブル交差点が設置されたのは1968年12月1日。当時は熊本市電黒髪線の終点「子飼橋電停」もあり、熊本大学へ通学する学生と子飼商店街への買い物客が行き交う国内有数の渋滞スポットであった。対策を検討していた当時の県警がニューヨーク5番街の事例を参考に設置したと記されている。

地方都市のスクランブル交差点は人口減少や車の使用率の増加に伴う歩行者の減少に合わせて廃止されていく傾向にあるが、子飼のスクランブル交差点は30年以上を経て現役で活躍している。今でも地域住民や学生にとって重要な役割を担っていることが伺える。

中心街方面に目を向けると、ガードレールが車道より大きく離れて設置されている事に気がついた。車道幅の拡張工事が計画されているのだろうか。昭和に日本初のスクランブル交差点が生まれた子飼交差点は、令和にはどんな光景へと生まれ変わるのだろうか。



かわい 界・隈・散・策

びぶれす 熊本市現代美術館



CAMK 熊本市現代美術館  
熊本市中央区上通町2番3号 びぶれす熊日会館3階  
開館時間：午前10時から午後8時  
休館日：毎週火曜日・年末年始  
TEL:096-278-7500 FAX:096-359-7892

熊本市現代美術館は、上通り入り口の複合ビル、びぶれす熊日会館3階にある美術館です。無料の展覧会も常時開催されており、近代・現代の美術作品だけでなく、日本の古美術に加え、東洋や西洋など様々な地域の作品も展示されているためとても魅力的な場所となっております。また、数千冊の本が自由に読めるホームギャラリーや子育て相談などができる子育てひろばなどアート以外でも楽しめる場所があります。メインの展覧会場以外はすべて無料で利用することが出来るので待ち合わせや休憩など、市民の憩いの場として親しまれています。

現在、和田誠展を開催中。和田誠さんはイラストレーター、グラフィックデザイナーとして広く知られています。そのほかにも装丁家や映画監督、エッセイスト、作曲家、アニメーション作家、アートディレクターなどさまざまな顔を持っています。本展では、和田誠さんの仕事の全貌に迫る初めての展覧会なので、みなさんのぞいてみてはいかがでしょうか。